

ツアー企画者のための

地域の魅力を活かす エコツアー設計の手引き

(平成 30 年 3 月版)



関西広域連合
UNION OF KANSAI GOVERNMENTS





目 次

ページ

● プロローグ～エコツアーことはじめ	1
● まずはエコツアー企画の実際を見てみよう！	2
● 魅力を探る 地域の魅力ってなんだろう？	3
● 段取りする 食事はツアーの魅力&思い出の場所	3
● 段取りする 交通手段の検討や駐車場の手配も大事！	4
● 実施する 訪問先は複数案を検討しましょう	4
● 実施する ツアーの時間配分は遅滞対策を考慮して	5
● 実施する 当日の実施はスタッフ連携を楽しもう！	5
● エコツアー設計の手引き～関西の活かしたい自然エリアの自然資源活用～	8
● 1 はじめに	9
● 2 エコツアー設計の手順	10
2-1 「地域資源」の拾い出しと魅力の整理	
手順①	12
2-2 「地域資源」の選定	
手順②、手順③	14
手順④、手順⑤	16
2-3 各地域資源を基にエコツアーを組み立てる	
手順⑥、手順⑦	18
手順⑧、手順⑨	20
手順⑩	21
2-4 組織づくり、リスク管理に関する留意点	23
● 3 エコツアー参考事例	25

【地域住民と
協力者の活躍】

【プロモーターの
支援領域】

【コラム】

● 関西の活かしたい自然エリアについて	6
● 「地域資源」とは	8
● 魅力を見つける感性と伝える技術	15
● エコツアーを実施する地域の組織連携づくり	21



エコツアーによる地域おこし 持続的な観光と暮らしの実現

【旅行者】

魅力発信者・インフルエンサー
地域の魅力を内外に発信

連携
絆

【地域住民と協力者】

プレイヤー
エコツアーを上げる主役
手順①～⑩

【プロモーター】

旅行業者・中間支援組織で
商品の企画・販売・広報を担う
手順⑥～⑨

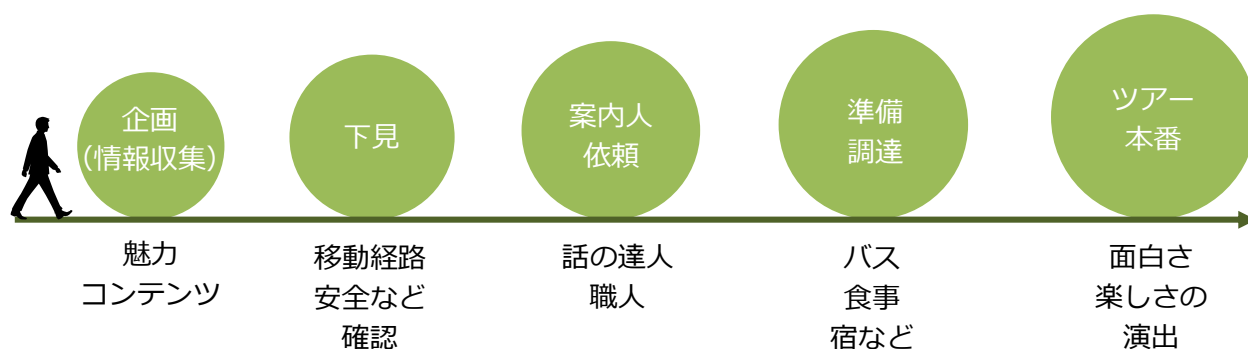
プロローグ～エコツアーことはじめ

関西広域連合は「関西の活かしたい自然エリア」を 23 地域選定しました（平成 28 年（2016 年））。

この“エコツアー設計の手引き”は、エコツアーを切り口に自然エリアの活かし方を示したものです。

「関西の活かしたい自然エリア」を活かす方法として、地域の自然を守り育てつつ、資源を観光にも活用するエコツアーに着目し、平成 29 年（2017 年）9 月 24 日に地域資源を活かすエコツアーを試行しました。ここでは、この体験をなぞりながらエコツアー企画を進める上での留意点を紹介します。

ツアー企画を進めるとなると考えることがたくさんあります。どこを案内し、誰に協力を得るか。人脈を探ったり、下見をしたり、準備物の調達も必要です。苦労もありますが、地域の魅力を新たに知ることができ、人々の絆が深まったりと喜びもたくさんです。



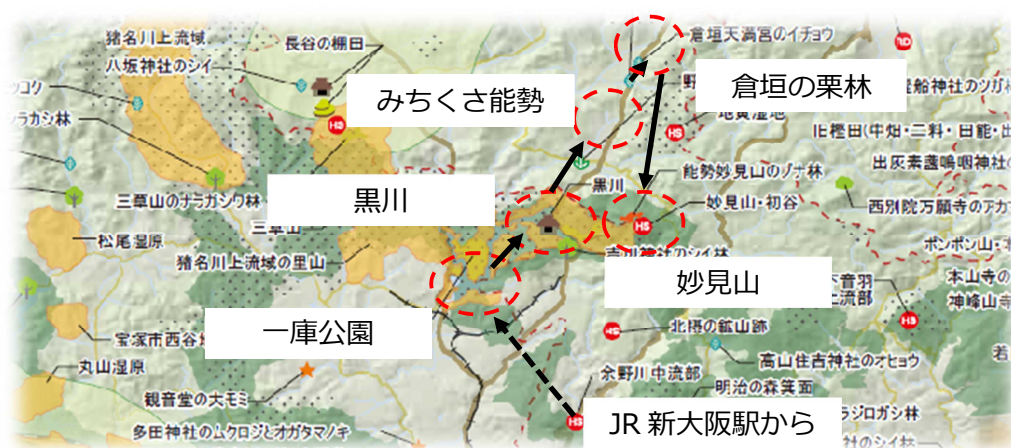
用語の説明：エコツーリズムとは（日本エコツーリズム協会による定義）

1. 自然・歴史・文化など地域固有の資源を生かした観光を成立させること。
2. 観光によってそれらの資源が損なわれることがないように、適切な管理に基づく保護・保全をはかること。
3. 地域資源の健全な存続による地域経済への波及効果が実現することをねらいとする、資源の保護＋観光業の成立＋地域振興の融合をめざす観光の考え方である。それにより、旅行者に魅力的な地域資源とのふれあいの機会が永続的に提供され、地域の暮らしが安定し、資源が守られていくことを目的とする。



まずはエコツアー企画の実際を見てみよう！

関西広域連合では、自然エリアを活用するための試行的なエコツアーを自然エリア16「北摂・南丹」を対象に実施しました。里山の自然環境と人の営み、文化、伝統について理解を深め、生物多様性や自然と人の営みによる恵みに気付くことを通じて、行政や活動団体、旅行会社等が自然エリアを活用するための足掛かりとするのが狙いです。今回のテーマは「里山と人のかかわり」。検討委員、自治体、旅行業関係、企業などから計17名が参加しました。



エコツアー（2017年9月24日実施）のスケジュール

目的地等	所在地	到着	出発	備考
起点（JR 新大阪駅）			9:00	新大阪駅のバス専用駐車場に集合
兵庫県立 一庫公園	兵庫県川西市国崎字 知明	9:50	10:30	里山の自然環境と炭作り文化の全体説明
黒川	兵庫県川西市黒川	10:40	11:40	モザイク景観の解説、台場くぬぎと炭窯クヌギ植樹場所の解説
野間の大ケヤキ	大阪府豊能郡能勢町 野間	11:45	11:50	国指定天然記念物の解説
昼食（民宿レストラン） みちくさ能勢	大阪府豊能郡能勢町 地黄	12:00	13:10	8種類の menu から選ぶ石窯ピザ、旬のとれたて能勢野菜の石窯料理等
栗林 銀寄（栗）の栽培	大阪府豊能郡能勢町 倉垣	13:20	14:30	伝統的に里山で栽培されてきた銀寄の栽培と生物多様性との関連
妙見山	兵庫県川西市黒川	14:40	16:40	妙見山にて妙見山のブナ林保全活動の説明
終点（JR 新大阪駅）		17:40		新大阪駅のバス専用駐車場にて解散

エコツアー設計にあたり、この地域に詳しい「兵庫県立人と自然の博物館」、「北摂里山博物館運営協議会」、「大阪市立自然史博物館」に地域資源とその守り手などの情報を頂きました（後述の手順①～⑤）。ターゲットは一般の方ではなく、自然エリアを活かした取り組みやツアー企画に深くかかわる立場の旅行会社、行政としました（手順⑦）。ツアーの役割分担は、関西広域連合が事務局、運営主体として「兵庫県立人と自然の博物館」や「北摂里山博物館運営協議会」、「保全団体」などがガイドを担いました（手順⑧）。ツアー当日。まず兵庫県立「一庫公園」で、この地域の里山と人のかかわりを展示物や写真などを用いて説明し、その後、里山の現場を巡りました（手順⑨）。なお、今回の試行的なツアーは、自然エリアの活かし方を探ることが目的でしたので、参加費は徴収していません。ツアー設計の各手順の詳細は、p9以降をご参照下さい。

まず、企画を立案するための会議を開き、電話とメールでも意見交換をして検討を進めた後、実際に下見と現地での打合せを実施し、企画を固めていきました。

また、エコツアーを組み立てる上で大切なのは地域の自然と文化です。それらに裏打ちされた、みんなに知ってほしい地域の魅力や参加者が楽しんでくれそうな面白い要素を探りました。

魅力探しには以下のポイントに着目しましょう。

- ① 知りえる情報を集め、地域ならではのものに注目
- ② 特に歴史に裏打ちされ、人々が引き継いできた文化とそれを育んだ生物多様性・自然に注目
- ③ 魅力を伝える食・体験・産物
- ④ 語り部やガイドとなってくれる人物を探す
- ⑤ 依頼先の絞り込みと調整
- ⑥ 伝え方、見せ方に工夫を凝らす

今回のツアーでは、「茶炭」と「銀寄（栗）」を地域の魅力ある資源に選びました。そして、地域の事柄に明るく人脈を持つ「北摂里山博物館」に相談しながら、依頼先の絞り込みと調整を関西広域連合が行いました。

ツアーを企画する上で重要なことは、地域事情に詳しい方の協力です。テーマを決定しても、その地域の魅力を伝えられる場所や人に関する情報はなかなか得られないものです。人脈を活かす！これにつきます。



自己満足に
注意！
地元への配慮
を！

ツアーでの飲食は、満足度に大きく係わります。美味しいだけでなく、その地域ならではのものも用意したいです。しかも季節の食事なら、旅行者の満足度をさらに高めてくれます。ところが、地域の特色を感じさせるお店はそう多くない地域もあります。また、食事場所は、お店の席や営業日、ツアー予算などを考慮して選ぶ必要があります。

今回のお店探しには、地域のどこにどんなお店があるかに精通した方にご協力頂きました。探してはみたものの、一つ駄目、二つ駄目となり、とある農家民宿レストランにたどり着きました。無農薬野菜の総菜と採れたて野菜をトッピングした石窯ピザ。独創的なトッピングのスイーツピザなどもあり、参加者の多くが大満足。心残りだったのは民家を楽しむ時間が取れず、見どころの解説ができなかったことでした。



お店の魅力
をしっかり
伝えよう！

【段取りする】

交通手段の検討や駐車場の手配も大事です！

目的地がおよそ決まり、好都合な交通手段を検討した結果、今回のエコツアーでは、公共交通機関の利用は難しく、バスをチャーターするのが最適という結論になりました。

訪問地の一つである「一庫公園」の駐車場への進入路は道幅が狭く、27名乗りの中型バスが限界でした。そこでバス確保のために複数のバス会社に電話。すると中型バスを所有する会社は意外に少なく、しかも、運行できる区域制限があったため、計画にマッチするバス会社を見つけるのに苦労しました。観光バスの需要が伸びている今日、バスを利用する企画の場合は余裕をもって計画することが大切です。



ツアーを実施する上で旅行業法以外に関係する法令がいくつかあります。今回のツアーでは府県をまたいだため道路運送法（20条）による規制がありました。最近では、旅行代理店以外にも、インターネット上に一括見積請負サイトなどがあり、営業区域の業者を探してくれます。もし、あてにできる地元業者がない場合は、うまく活用しましょう。また旅行業法上、報酬を得て、運送や宿泊の手配などをし、不特定多数に募集をするには資格が必要ですので注意が必要です。

【段取りする】

訪問先は複数案を検討しましょう

訪問先はテーマにマッチする候補を複数あげて、様々な検討を重ねて選定します。また、十分な解説時間がとれるように各訪問先での時間配分も重要です。

企画段階では、今回のツアーの訪問先として「ここはお勧めしたい！」と思った地区がありました。しかし、訪問先に相談したところ、過去に団体を受け入れた際に嫌なことがあり、以後、受け入れは控えているということで訪問先とすることができませんでした。エコツアーの実施には地区住民の理解と協力は欠かせないことを実感した出来事でした。

今回、訪問を諦める場所が出た一方で、新たに追加できた訪問先があります。それが里山の上にある鎮守の原生林、妙見山のブナ林です。まっすぐに立つブナに目が釘付けになり、様々な樹種の大木に会える場所です。森の魅力だけでなく森の守りに^も励んでいる案内人の方々の丁寧な解説はとても好評でした。妙見山のブナ林を勧めてくれたのは「能勢妙見山ブナ守の会」とつながりのある北摂里山博物館の方々でした。



【実施する】

ツアーの時間配分は遅滞対応を考慮して

当初、現地に近い川西能勢口駅からのバス出発案がありましたが、ツアーの集客力を高めるため新大阪駅からの出発としました。事前の下見で各訪問先を周るのに必要な時間を調べ、トイレの場所も考慮して訪問の順番と滞在時間を検討しました。その結果、前半は里山の暮らしと生物多様性に着目して菊炭と銀寄(栗)を見聞し、後半に里山から妙見山山頂に移動してブナ林を訪ねるコースとしました。

エコツアー当日は、順調に訪問地を周りました。訪問先を欲張らないスケジュールにしていたことで、多少の遅滞が生じても取り戻すことが出来ました。反省点は、昼食時間が1時間を切り短かったこと。参加者の交流やお店の魅力を堪能するには、1時間でも短いと感じました。また、参加者アンケートでは、「見聞だけでなく体験が欲しい」という意見が複数ありました。欲張らず訪問地一つ一つを大事にして体験メニューを盛り込むことが旅行者のニーズに応えることになるようです。

訪問先は欲張らずに厳選遅滞対応できるように



【実施する】

当日の実施ではスタッフ連携を楽しもう！



エコツアー当日の受付では、参加者の確認や昼食代の徴収と資料の受け渡しなど、様々な作業があり、対応が混乱しがちです。想定外の事案が発生することもあります。そのため、あらかじめ複数のメンバーで、問い合わせや体調不良、遅刻連絡などに対応できる体制をつくる必要があります。また当日はメンバー間のチームワークが求められます。役割分担だけでなく、突発的な出来事に対応できるサポート体制を確認しておくことが必要です。

集合時は混乱しやすいので十分な体制を



コラム 関西の活かしたい自然エリア選定について

関西地域の生物多様性（生きもののにぎわい、つながり）を保全するため、はじめに各地に分散している自然公園、天然記念物、重要文化的景観、各種の百選などの生物多様性に関する情報を共有・一元化しました。そして、自然環境は府県をまたがりつながっているため、関西地域の重要なひとまとまりの自然として海域・沿岸域、淡水域、平野・丘陵域、山地域の4つの地形区分に分類し、「関西の活かしたい自然エリア（以下、自然エリアという）」23 地域を選定しました（図1）。また、各自然エリア内にある代表的な各種の自然資源を地図に示しました（図2）。

この自然エリアの地図中には、様々な自然資源が記載されており、位置関係も一目でわかることから、エコツアー設計にあたって地域資源の掘り出しや関連付けなどに活用できます。より詳細な情報は右側の QR コードからホームページをご覧ください。

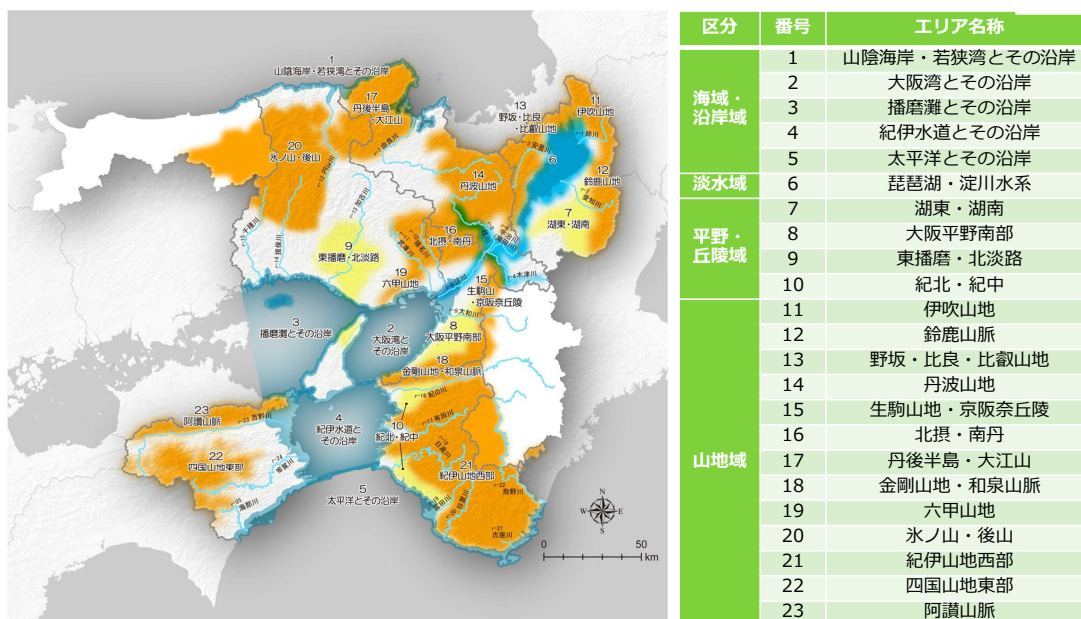


図1 関西の活かしたい自然エリア

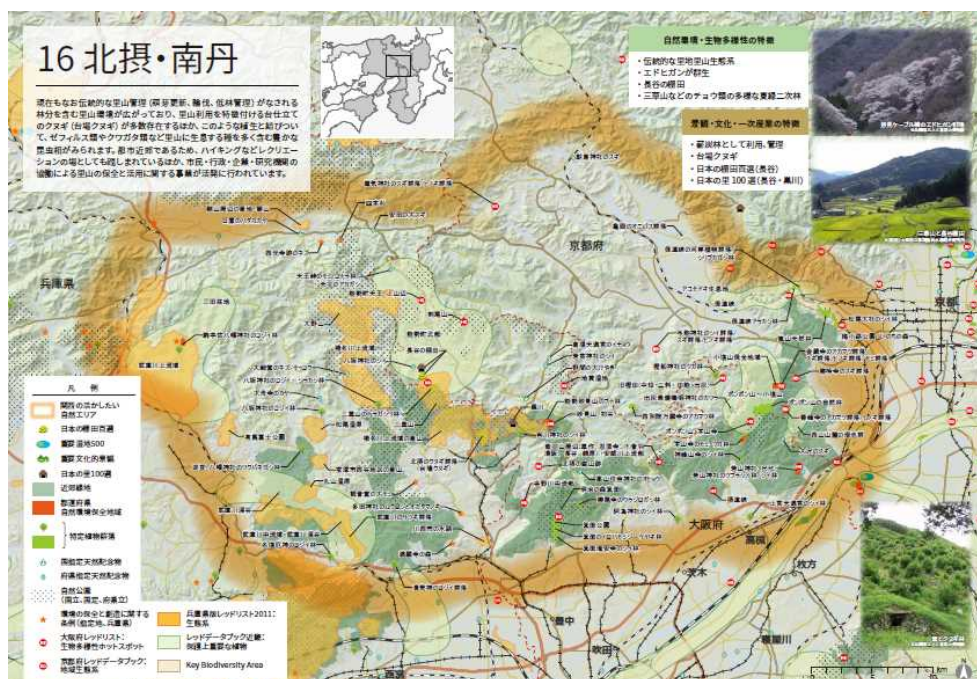


図2 関西の活かしたい自然エリア（16番 北摂・南丹）

エコツアーをデザインする!

「エコツアー」で地域の人々と自然を元気に！
ここからは
実際にエコツアーを企画・実行するための手順を示します。
地域連携による「こと起こし」をはじめましょう。



「手引き」の始まりです。

エコツアー設計の手引き

～関西の活かしたい自然エリアの自然資源活用～

1 はじめに

【目指すもの】

関西広域連合では、関西地域において生物多様性の保全上重要な23の地域を「関西の活かしたい自然エリア」（以下「自然エリア」という）として選定し、公表しました（平成28年（2016年）11月、P6コラム参照）。

この自然エリアの魅力を発信し、保全、活用するための方法としてエコツアーに着目しました。例えば、里山の荒廃が全国的に問題となっていますが、私たちが適度に自然に働きかけることで、里山の自然や素晴らしい景観が保たれます。生きものと人とが織りなす関係と、そこから得られる自然の恵み。それを気づかせてくれる場が自然エリアです。

人と自然が長い歴史を経て形作った衣食住の文化。それを支える自然資源。これらエコツアーに活かすために、その企画の手順を記したのがこの手引きです。

この手引きが示すエコツアーとは、単なる自然巡りではなく、ツアー参加者が自然資源の魅力に触れながら楽しみ、それを守っていくことの重要性を知り、自らの暮らしのあり方に落とし込みたくなることを目指しています。

参加者が訪問地の自然と文化、そして人々の暮らしに興味と愛着を抱き、地域の保全活動にも参加するようになること。そして、地域の社会と環境を守る担い手の確保が進み、観光により地域が賑わいを取り戻す好循環を生み出し、固有の自然資源の価値を更に高め、将来にわたって保全・活用されることを目標としています。

この手引きはその実現のためのツールであり、地域住民、活動団体、観光協会、地域おこし協力隊、教育機関、行政、地域の旅行会社等、エコツアーに関わる様々な立場の方に活用して頂けるよう作成しました。

【最初に取り組んで欲しいこと】 スタートは地域の未来像を描くことから

私たちは、地域の自然資源とその魅力をエコツアーに活用することで、地域が守り継いできた「自然と共生する社会」を未来に継承したいと考えています。エコツアーのことはじめにまず取り組んで欲しいことがあります。それは「地域の未来像」を描くことです。地域の守り手の思いや現状の改善を中心に据えて展開していかなければ、一過性の取り組みになってしまいます。「地域の未来像」を旅行者と共有し、一緒になって「物語」を紡いでいく。そんなエコツアーを23の「関西の活かしたい自然エリア」で展開していきませんか。あなたのエコツアーがきっかけとなり地域の生物多様性が保全され、自然の恵み豊かになるように、持続可能な社会づくりの一步を踏み出していきましょう。

2 エコツアー設計の手順

【地域住民が創る魅力ツアーを連携で広める】

すべては魅力あるエコツアーを地域主導で創り上げることから始まります。魅力あるツアーを創ったからには、ツアー商品としてお客さんに販売したいですよね。バスや宿、ガイド等の手配を仕事（手数料による収入）にするのであれば旅行業法の資格が必要なので、旅行業社の協力を仰ぎましょう。募集型企画旅行※として販売するには旅行業法の規制があるので、旅行代理店との連携が欠かせません。エコツアーの展開には以下の3つの立場の人々が関わりを持ちます。ツアーの成功には、それぞれの活躍が結果に結びつきます。

■「地域住民と協力者」 プレイヤー

地域のつながりを活かしプランを練り、旅行者をもてなす立場です。プレイヤーであり、プランナーでもあります。

■「プロモーター」 旅行者・中間支援組織

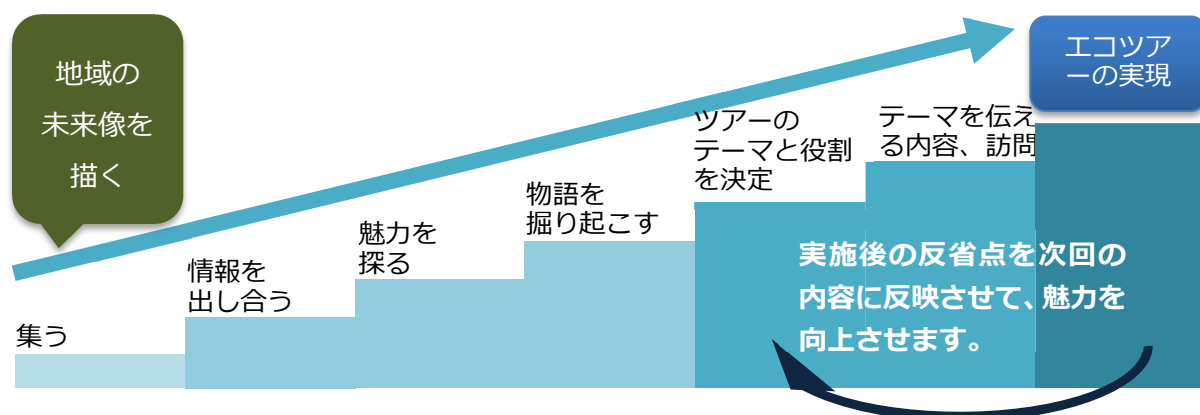
一緒にツアー内容を考え、旅行業に関わる専門的な知識と経験でプランナー、プレイヤーをサポートします。また、ツアーを商品と位置づけ地域に人を呼び込むために情報発信を担います。

■「旅行者」 魅力発信者・インフルエンサー

旅行での印象深い体験をインターネットなどにより発信してくれます。それが呼び水になり、地域の魅力や特色、特産品などが広く知られるようになります。リピーターとなる人との交流により、旅行者目線からの意見やアドバイスを得ることができます。

自然エリア内の地域資源を活用したエコツアーづくりには、上記3者の関わりが大事になります。この手引きは主にプレイヤーである「地域住民と協力者」と「プロモーター」に向けて作られています。次図にツアーのメニューをつくる上での大まかな流れを示しました。

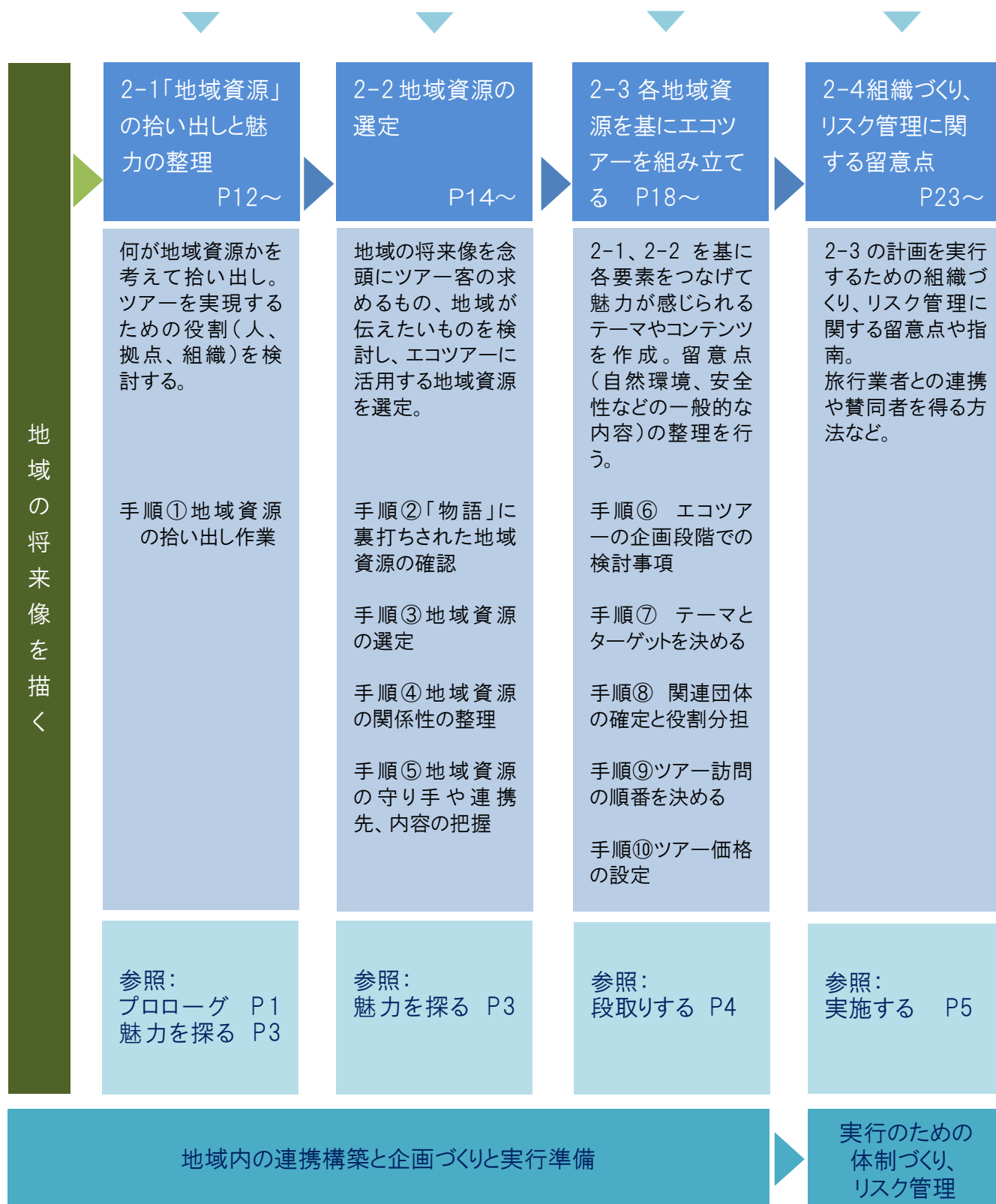
これは標準的な手順ですので、各地域の実情や関わる主体によって異なってきます。



※ 旅行会社が旅行目的地および日程、宿泊や交通、観光などのサービス内容、料金をあらかじめ設定し参加者を募る旅行のこと

関西の活かしたい自然エリアにおけるエコツアーの手順

あなたの地域はどの段階ですか？
お住まいの地域の協働状況に合わせてスタートしましょう！



2-1 「地域資源」の拾い出しと魅力の整理

【手順① 地域資源の拾い出し作業】

ここで行う作業は、この手引書の表 2-1 にある「地域資源の書き出しおよび選定票（以下「書き出し票」という）」に情報を書き込むことです。

まず少人数でもよいので仲間と集まって「魅力的な地域資源」を拾い出すことから始めます。観光客、旅行者にとって何が魅力に映るかは人それぞれです。このため、自分が暮らす地域において当たり前にあるものも含めて、思いつくものを書き出し票の「地域資源」の欄に書き込みます。この時、書き込む「地域資源」は、有形・無形を問わず、地域の魅力と思える「こと・もの・人・場所」です。

地域資源の代表的なものとして、自然環境、世界遺産、ジオパーク、伝統工芸、歴史的建造物、旧街道、歴史的景観、農業遺産、固有の農業、農村景観、里山、森林景観、伝統祭事、神事、偉人、伝統食、職人、語り部などが挙げられます。これらは、もちろん全てではありません。自然エリアには様々な地域資源が掲載されており、地域資源の拾い出し作業に役立ちます。

コラム 「地域資源」とは

近頃、地域資源や自然資源という言葉がよく用いられます。まずは用語の説明をします。地域資源には、身の回りのものすべてが含まれ、エコツアーの推進には、何を、いつ、誰と、どのように活かすのかを考えることになります。

「地域資源」とは、多くの辞書によると自然資源のほか、特定の地域に存在する特徴的なものを資源として活用可能なものと捉え、人的・人文的な資源をも含む広義の総称となります。そして、活用を考えた時には、これに個人や地域の財産と時間も、大事な資源として含まれてきます。

「自然資源」とは、人間に利用される自然のなかの物質および物質生成の源泉となる環境の働きをいいます。主なものとして土地、水、鉱物などの無生物資源と森林、野生鳥獣、魚などの生物資源が挙げられます。それらは存在する場所によって地下資源、地上資源、水産資源に、また用途によって食料資源、原料資源などに分類されます。



表 2-1 地域資源の書き出しおよび選定票（記入例）

No.	地域資源 （見所・文化などの要素）	物語 ②-1	物語の インパクト ②-2	資源の分野 ③-1	他の地域資源と の関係 ③-2	選定結果 ③-3	関係性 ④
1	一庫炭（菊炭）	有・無	高・低・無	林業/文化	有・無	対象・非対象	
2	台場クヌギ	有・無	高・低・無	林業/自然	有・無	対象・非対象	
3	クヌギ林	有・無	高・低・無	林業/自然	有・無	対象・非対象	
4	炭焼き窯	有・無	高・低・無	林業	有・無	対象・非対象	
5	炭焼き職人（〇〇氏）	有・無	高・低・無	林業	有・無	対象・非対象	
6	エドヒガン（サクラ）	有・無	高・低・無	自然	有・無	対象・非対象	
7	スギ・ヒノキ人工林	有・無	高・低・無	林業/自然	有・無	対象・非対象	
8	クリ園/クリ林	有・無	高・低・無	林業	有・無	対象・非対象	
9	銀寄（クリ）	有・無	高・低・無	林業	有・無	対象・非対象	
10	ミツバチ飼育（〇〇養蜂店）	有・無	高・低・無	農業・農村	有・無	対象・非対象	
11	〇〇神社の社殿	有・無	高・低・無	信仰/建物	有・無	対象・非対象	
12	〇〇神社の社叢林	有・無	高・低・無	信仰/自然	有・無	対象・非対象	
13	〇〇寺の仏像	有・無	高・低・無	信仰	有・無	対象・非対象	
14	地域固有の野菜（〇〇）	有・無	高・低・無	農業・農村	有・無	対象・非対象	
15	地域固有野菜の栽培方法	有・無	高・低・無	農業・農村	有・無	対象・非対象	
16	地域固有野菜の継承者（〇〇氏）	有・無	高・低・無	農業・農村	有・無	対象・非対象	
17	道の駅 〇〇	有・無	高・低・無	買物/トイレ	有・無	対象・非対象	
18	農家民宿 〇〇	有・無	高・低・無	宿泊	有・無	対象・非対象	
19	田園カフェ 〇〇	有・無	高・低・無	食事	有・無	対象・非対象	
20	農産物直売所	有・無	高・低・無	買物	有・無	対象・非対象	
21	〇〇工芸店	有・無	高・低・無	買物	有・無	対象・非対象	
22	郷土資料館	有・無	高・低・無	文化/自然	有・無	対象・非対象	
23	ガソリンスタンド	有・無	高・低・無	その他	有・無	対象・非対象	
24	駐車場	有・無	高・低・無	その他	有・無	対象・非対象	
25	コンビニエンスストア	有・無	高・低・無	買物	有・無	対象・非対象	
26	〇〇診療所	有・無	高・低・無	その他	有・無	対象・非対象	
27	〇〇街道の街並み（古民家群）	有・無	高・低・無	建物	有・無	対象・非対象	
28		有・無	高・低・無		有・無	対象・非対象	
29	手順①	手順②（2	手順③（3項目）	手順④			
30		有・無	高・低・無		有・無	対象・非対象	

注釈）手順②-1、②-2、③-1～③-3、④については文章中で詳細に説明します。

※記入用のシートは関西広域連合広域環境保全局ホームページで入手できます

2-2 地域資源の選定

【手順② 「物語」に裏打ちされた地域資源の確認】

書き出し票に書き込まれたもののなかから、「地域の宝」は何か意見交換をして地域の代名詞となるような「こと・もの・人・場所」を探ります。その際に大事なのが歴史や暮らし、文化、人などが紡ぐ「物語」です。

自然エリアには、必ず人に語り伝えたい物語が複数あるはずです。それを最大限に活かします。「物語」の例としては、以下のものが挙げられます。

- 昔から引き継がれてきた自然景観
- 栽培作物、植物に関する生態や自然と人の関わりなど
- 地学や地球史からみたその土地の成り立ちや特徴。それ故に育まれた産業など
- 偉人に関する逸話や歴史
- 伝統的な「もの・こと・場所」に関する歴史や関りのある人物とその人物像
- 今現在、取り組みのある家業、農林業、レストランやカフェに関する人々の努力や想い

- 手順②-1：書き出し票※1「物語」の有無を確認します。
- 手順②-2：「物語のインパクト」は、地域の代名詞的なものと言えるか、来訪者にとって想い出になるものか、楽しいコンテンツか考え、インパクトの強さを判定します。

【手順③ 地域資源の選定】

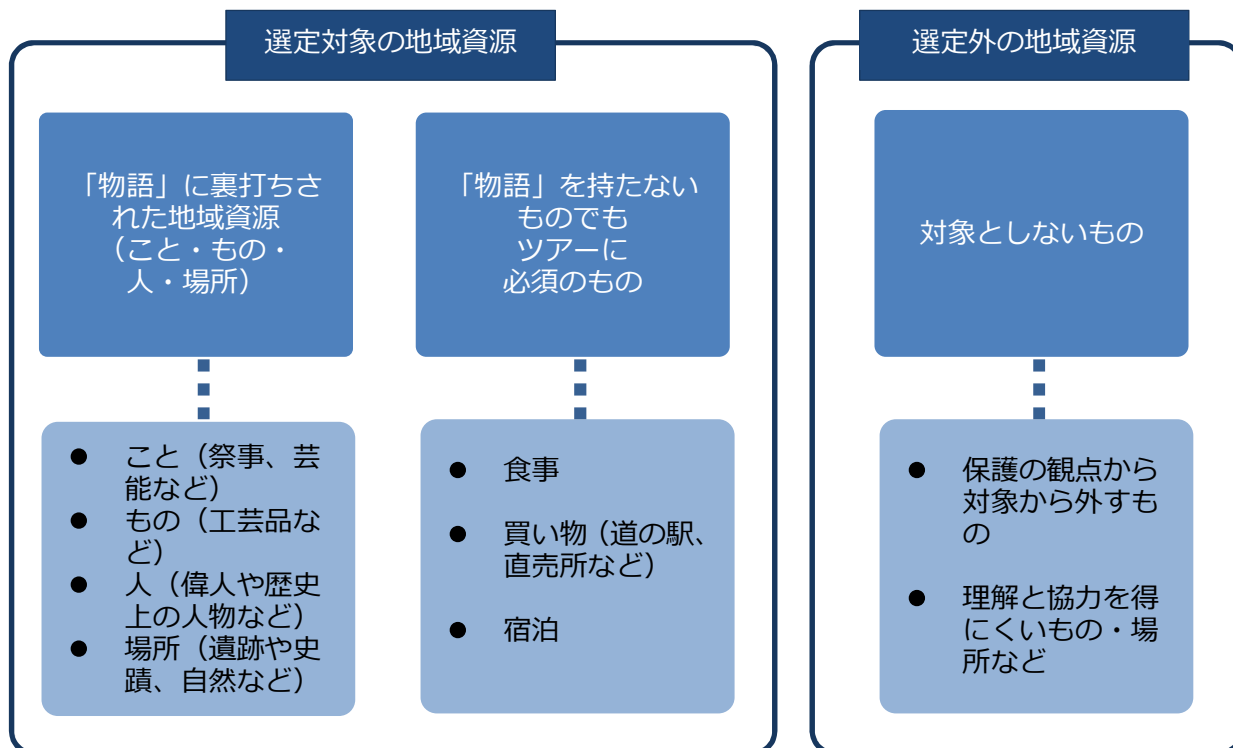
手順②-1の「物語」の有無、手順②-2の「物語のインパクト」の書き込みを終えると、次は以下の項目の記入、判定となります。

- 手順③-1：「資源の分野」として適当な言葉を選び記入します。類似したもの、異なるものを認識します。
- 手順③-2：「他の地域資源との関係」の有無を判断します。関係性に気づくか、見つけ出せるかが問われますが、ここでは可能な範囲で判断します。
- 手順③-3：「選定結果」の記入となるので、「物語」を持ち、エコツアーの話題として通用するものを持つか、他の複数の地域資源と関係性を持つかをみて選定対象とするか否かを判断します。住民の理解と協力を得にくいものや保護の観点から旅行者への紹介を避けたいものは対象から外します。

また、観光客は、食事やストレス解消、癒しなど様々な面から旅行の価値を求めています。そんな観点で地域に足を止めて過ごして頂く工夫があれば、自然の貴重性だけを語るツアーよりも地域に興味を持つ人、愛着を感じてくれる人が増えることが期待できます。伝えたいこと、分かって欲しいことだけに捉われずに「楽しんでもらう」視点も考えて選定対象を選びましょう。

これまでの作業を経て選出した「地域資源」と「物語」。これらが揃った段階で、テーマを決めることになります。これから先の作業は、個人や団体など、地域に関わる様々な仲間が協力してツアーを作り上げることが求められます。

地域の未来/将来像と照らして、マッチするものを優先します！



コラム 魅力を見つける感性と伝える技術

書き出した地域資源である「こと・もの・人・場所」の魅力を引き出すには、対象に関する知識だけでなく、それを楽しむ感性も重要です。集まって「宝探し」をする際には、老若男女を問わず、更に様々な職業や趣味を持つ人が集まることが理想です。

また、魅力を取り出す技術も必要です。郷土のことに詳しくなることはもちろん、経験を積んで人に伝える技術を磨く必要があります。地域住民だけでは限界を感じる場合は、博物館学芸員や研究者、郷土史家などの力を積極的に借りて、指導を受けながら自分たちでできる方法を見出しましょう。



【手順④ 地域資源の関係性の整理】

手順①～③で整理した各地域資源について、自然と人、歴史、文化、産業とのつながりなどに着目し、つながりを把握します。この整理結果は次の手順⑤で活かされます。

- 手順④：「関係性」では、各地域資源の関係性や類似性を考え、矢印で結び、整理します。これにより、地域の独自性や協働の段階も見えてきます。

【手順⑤ 地域資源の守り手や連携先、内容の把握】

先に行った手順③-3 による「地域資源の選定結果」と手順④の「関係性」の整理により、連携先や取り組み内容を把握する対象が絞られました。

そこで手引きの表 2-2「エコツアー企画における情報整理表（以下「情報整理表」という）」の作成に移ります。書き出し票において選定された地域資源のみを対象にして情報整理表の記載項目に関する情報を集めて記入欄を埋めていきます。

記入項目は多岐に渡りますので、集まったメンバーによっては、その場で全てを書き込めず、後日、情報を集めて記入することになるでしょう。

情報整理表に示された項目の情報を集めることで、エコツアー訪問先や巡回ルート、募集参加者数や参加費等の検討に必要な最低限の情報が揃います。

完成した情報整理表を用いて、次の作業である「テーマ」の設定とツアー内容の具体化が可能になります。表 2-2 の情報整理表には、記入例を示しています。表中の手順⑤-1～⑤-7 については、表 2-2 の記入例と合わせて以下の説明をご覧ください。

- 手順⑤-1：「地域資源」とは、例えば森林公園、里山林、棚田、湖、河川、農園、果樹園、郷土資料館、道の駅、カフェ、農家民宿、工芸店などが対象として挙げられます。候補に挙げたい地域資源を考えて記入します。
- 手順⑤-2：「地域資源の分類」では食事、宿泊、買う、遊び、農業体験、観光、文化、自然学習などが挙げられます。適当なものを考えて記入します。
- 手順⑤-3：「関係団体・組織または個人など」では、旅行者に対応できる組織、自治会、NPO、役場、個人などを記入します。
- 手順⑤-4：「案内/ガイドの担い手」では、旅行者に地域資源にまつわる「物語」、歴史やいわれなどを紹介できるガイド協会、個人、自治会などを記入します。
- 手順⑤-5：「季節の見どころ・旬のあるもの・特別なイベントや行事」では、例えば、季節の花の名前や観察しやすい冬鳥や夏鳥、農事歴に合わせた景観美のシーズンなどやその年にしか行わない特別な祭事やイベントなどを記入します。
- 手順⑤-6：「地域資源の詳細分類」では、例として 10 区分が示されています。該当するものに○、強みとして売り出せる力を持つものに◎を記入します。
- 手順⑤-7：「受け入れ態勢」に関する項目で、ツアー連携先や募集人数、価格などを決める際に不可欠である情報です。営業日、提供しているコンテンツと料金、トイレと駐車場の有無、アクセスルートの状況、受入れ可能人数について調べて記入します。

表 2-2 エコツアー企画における情報整理表（記入例）

[illegible]

(注釈) 手順⑤-1～⑤-7、⑥、⑦-1～⑦-3、⑧～⑩については文章中で詳細説明

手順⑤-6については以下の記号を記入

○：該当する地域資源	◎：該当する地域資源の中で特に売り出せるもの、期待できるもの
------------	--------------------------------

※記入用のシートは広域環境保全局ホームページで入手できます

2-3 各地域資源を基にエコツアーを組み立てる

【手順⑥ エコツアーの企画段階での検討事項】

情報整理表の⑤-1～⑤-7 までの情報が揃ったら、いよいよツアー企画を立てる作業に移ります。検討・記入する項目を情報整理表の右側、「エコツアー計画の検討事項⑥～⑩」に示してあります。

- 手順⑥：「守り手/住民への配慮」は、地域資源の守り手である住民や自治会、NPO 団体などへの配慮を十分検討しておくものです。検討内容は主に以下の3つがあります。
 - ✓ 自然資源の保全と持続可能な利用を図る。
 - ✓ 守り手や地域住民への配慮事項とトラブル防止のための約束事の覚書を作成する。
 - ✓ 地元の経済面・心情面に利益がある仕組みを考える。

【手順⑦ テーマとターゲットを決める】

地域資源にはそれぞれ「物語」があります。集めた「物語」の関係性を整理して、エコツアーの「テーマ」を決めます。

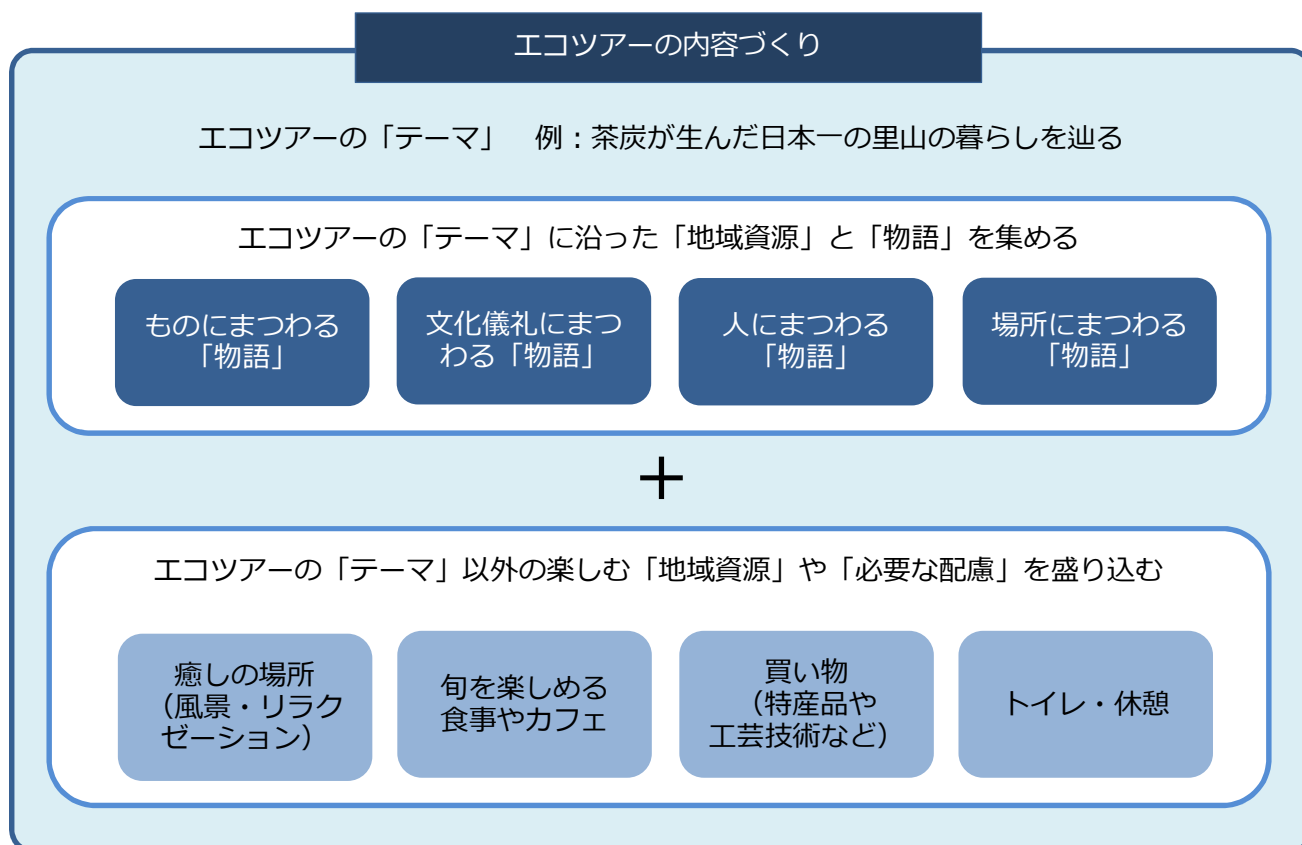
様々な「テーマ」を設けて、複数のツアーが作られると旅行者が好きなものを選べるので「コンテンツ」となります。

エコツアーを企画する際に大事なことが、もう一つあります。それは対象となる旅行者（ツアー参加者）をできるだけ具体的にイメージして、内容や展開、見せ方などを工夫することです。この対象とする旅行者が「ターゲット」です。作業は表中の項目に従って以下の順に進めます。

- 手順⑦-1：「地域の代名詞となるキーワード」では、選定された地域資源と物語を俯瞰して、地域の代名詞となるキーワードを検討し、欄に記入します。
- 手順⑦-2：「テーマと内容」では、ツアーの内容を「あれもこれも」と盛り込み過ぎないように注意し、「テーマ」に沿って活用資源を絞り、まとまりの良いものに仕上げます。協議の結果を欄に記入します。
- 手順⑦-3：「ターゲット」、「テーマ」を決めてツアー募集を進めるためには、どのような人々に向けて情報発信し、来ていただくかターゲットを決めることが重要です。募集をかける年齢層、性別、家族構成、嗜好などを具体的にイメージします。

「テーマ」に興味を持ち集まったツアー参加者であっても興味の度合いはまちまちです。そこで、「テーマ」に捉われ過ぎずに、農産物やその加工品、工芸品などの買い物、食事など、地域の様々な魅力を伝える機会や気分転換ができる時間などを盛り込みます。特に、買い物や食事は地域にお金を還元することができ、地域の活性化にもつながります。この工夫は、設定した「テーマ」からはみ出すこともありますが、ツアー参加者に違った角度から地域の魅力や特徴を知ら

せるきっかけになります。エコツアーの具体的な内容は、「テーマ」に沿った訪問先とそれ以外の休憩/気分転換の訪問先の組み合わせで構築されます。



【テーマの例】

- 海域・沿岸域
「漁業を支える海と干潟に棲むいきもの」
「ジオパークの自然海岸の成り立ちと自然の恵み」
- 淡水域
「ヨシに支えられた人の暮らしと文化」
- 平野・丘陵域
「河畔林の身近な自然巡りと自然を活かした地域文化」
「水田・ため池文化と抽水植物（オニバス、ハス）」
- 山地域（里山・奥山）
「茶炭と鉱山が育んだ台場クヌギの森と生きものの暮らし」
「銀寄（栗）が育んだ人の暮らしと里山の動植物」
「人と自然が織りなす棚田の恵みと山野草で彩る風景」
「信仰と地域の気候が守り育てた妙見ブナの森と人々の関わり」

【手順⑧ 関連団体の確定と役割分担】

情報整理表の手順⑤-3 や⑤-4 において、地域のエコツアーを設計する上で、関係する個人や団体が見えてきます。そこで、ツアーを企画、実施する上で求められる役割を認識し、担当を決めていきます。役割には、主なものとして以下が挙げられます。これらの役割を誰が果たすのか協議し、体制づくりを図ることになります。代表的な役割を表 2-3 に記しました。

- 手順⑧：「ツアー企画の連携団体」には、ツアー内容とターゲットに合わせて、連携する個人、団体を確定し、名前、連携先などを記入します。

表 2-3 役割確認表

役割	担当する内容	担い手 (個人・団体)
事務局	ツアーの予約受付と問い合わせ対応、ツアーに必要な物品の調達と管理、緊急時の連絡網の整備と体制構築	
ガイド	訪問地におけるガイド役	
ツアーコンダクター	ツアー当日の段取りや工程管理、調整	
交通機関の担い手	バス等の車両の手配、運転手の確保など	
保健、安全対応	ツアー当日の病気対応、安全維持など	
保険	ツアー当日の保険対応	
ツアーサービス (コンテンツ提供)	地域特有の文化や自然資源を活用したコンテンツの創作と提供	

【手順⑨ ツアー訪問の順番を決める】

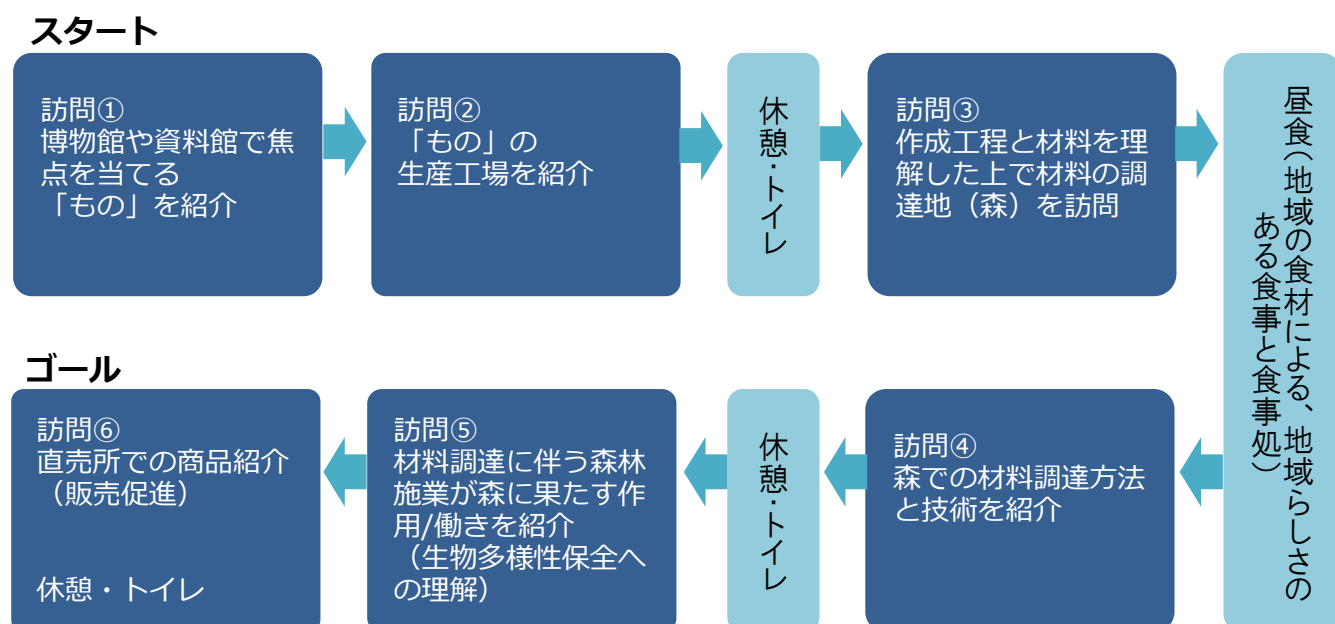
ツアーの内容は、「テーマ」に地域資源を集めるだけでなく、その関係性を整理して見せることが大事です。どの順番で周り、紹介するかで、印象や面白さは違ってきます。理解しやすいように、また面白さを感じていただくように訪問順を検討します。

各訪問地の位置関係から、思うように順番を組めないことも生じるかもしれません。訪問順や説明内容と方法は、設定した「ターゲット」に合わせるようにします。内容が定まってくると表 2-2 のツアー企画の連携団体の欄に訪問する順番（案）を記入します。

例えば、子供や家族参加を「ターゲット」とする場合は、深入りしすぎない内容で丁寧に分かり易く、知識豊富な方を「ターゲット」にした場合は、知的好奇心を満足させる深い内容とします。

ツアーを繰り返し実施する中で改善をはかり、より良い見せ方を工夫するように努めると洗練されていきます。参考までに仮テーマ（工芸の里の暮らしと生物多様性）に従ったエコツアーの訪問例を以下に示しました。

地域資源の訪問順番の例（仮テーマ：工芸の里の暮らしと生物多様性）



また、訪問地への移動時間を有効活用し、見どころの紹介、補足説明などを行うことでツアーをより充実したものにできます。

【手順⑩ ツアー価格の設定】

関係者、関係機関を決定すると、それぞれの収益の確保や配分を検討します。

手順⑩：「ツアー募集人数と価格の設定」では、企画するエコツアーの募集人数と価格を検討します。この時に受け入れ許容人数と収益のバランスを確認することが重要です。

コラム エコツアーを実施する地域の組織連携づくり

エコツアーを推進する上で、地域の様々な主体との連携は不可欠です。一つの理想的な連携を示したのが図3です。企画推進の留意事項の確認ができるように、この手引きに記した留意点を合わせて記すことでチェックシートとなっています。

エコツアーを企画し内容を練り上げるのは、地域住民や自治会、有志団体などが主です。そして、中間支援組織や地方自治体、DMO※、地域の旅行業者などがエコツアー企画を協働で行い、広告宣伝・販売促進を担うプロモーターとして活躍することもしばしばです。

図3の「地域住民と協力者」「プロモーター」「旅行者」の3者が、それぞれの立場で役割を果たすのがエコツアーです。

旅行者は地域に金銭による利益を落とすだけの存在に終わらず、ファン、サポーターとなって地域の社会課題を解決する一役を担ってくれる可能性を持っています。それを意識して、「地域の未来像（将来ビジョン）」をツアーの内容に反映し、地域資源が守られる仕掛け、仕組みを作り上げることが望まれます。

※DMO：観光地域づくりの舵取り役を担う法人

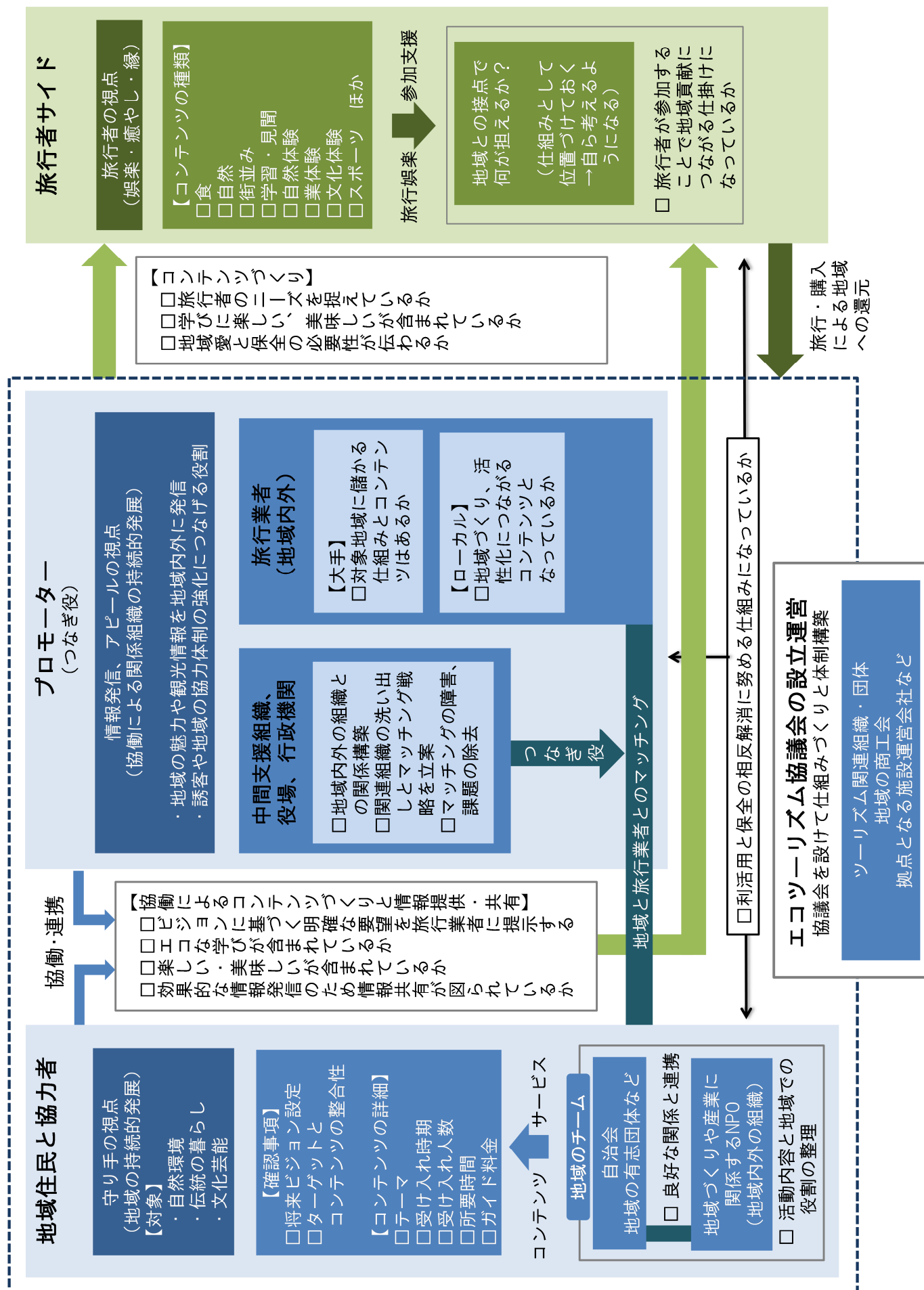


図3 地域連携の理想的なつながりとエコツアー企画運営における注意事項（チェックシート）

2-4 組織づくり、リスク管理に関する留意点

【エコツアーの留意点と体制づくり】

ツアーを実施するには、様々な主体との連携が必要です。顧客対応やリスク管理、満足度の向上など懸案事項が幾つもあります。特にエコツアーは、地域の自然資源を継続して活用することになりますので、自然や生きものへの配慮が欠かせません。

コラムで紹介した図3から見て取れるようにプレイヤー（プランナー）である「地域住民と協力者」、そして、そのサポートと広報を担う「プロモーター」、さらに観光を楽しむ「旅行者」。それぞれがお世話になる地域の自然資源への心配りを忘れずに、観光という枠に留まらない責任ある行動や役割が求められます。それが地域社会の持続的な発展につながるエコツアーにとって重要な点です。

地域の自然資源の恵みを次世代に引き継ぐためにエコツアー設計の主要な検討事項や留意点を次のページの表2-4に示しました。

様々な主体が関わるため、トラブルを避けるためにも役割を明確にし、関係者と連絡を密にとり、調整を図りながら進めることが肝要です。地域に中間支援組織があるなら頼りにできますし、地域連携の体制がまだないところは、個人の取り組みからスタートして、仲間を増やし組織化できれば体験メニューを増やしたり、連携先を増やすこともできます。地域連携が深まれば、エコツーリズム協議会の発足を目指すことをお勧めします。

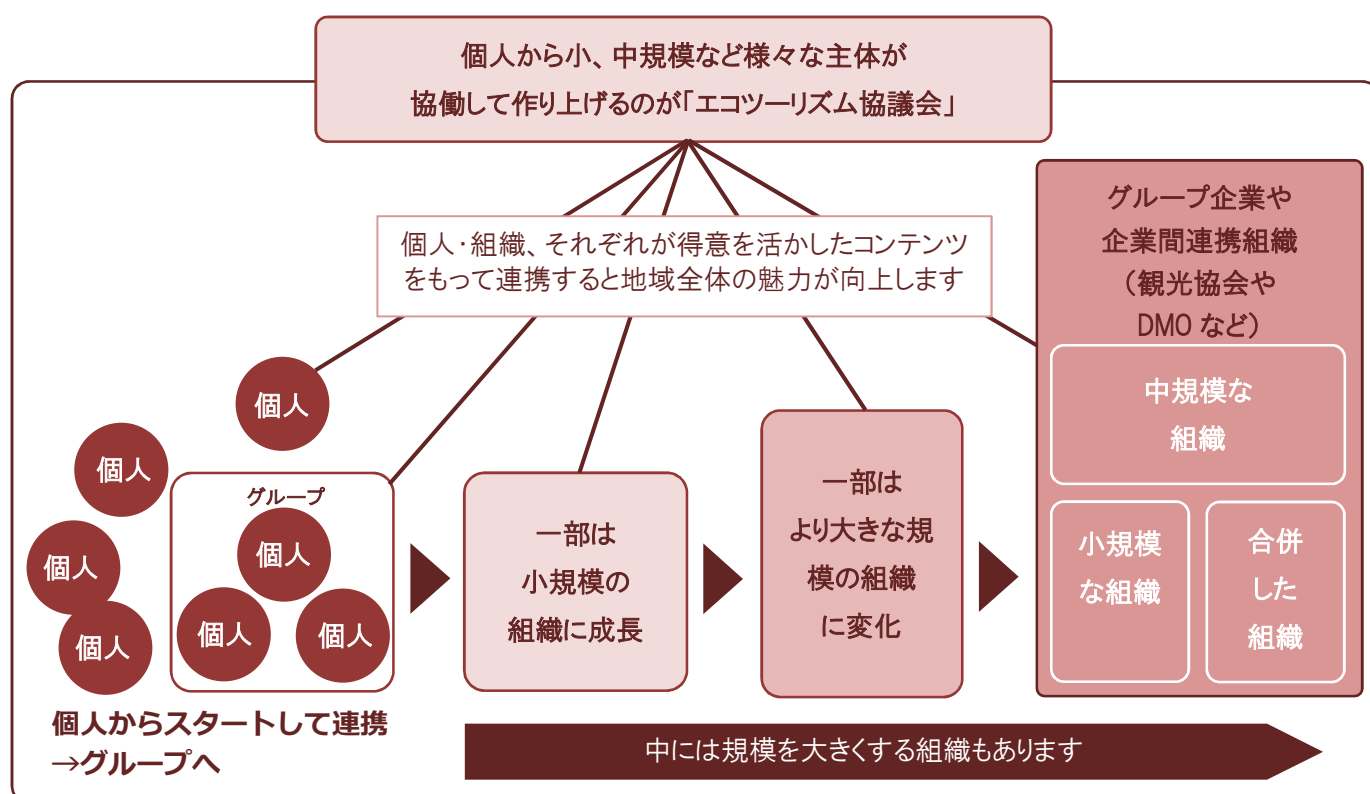


表 2-4 組織づくり、リスク管理に関する留意点

項目	組織づくり	リスク管理
地域社会づくり	・「地域の未来像」を描き、目的を明確化 ・利益が地域に還元される仕組みづくり ・地域外や移住者の意見の確認	・守り手の視点に立ち、持続的な資源利用や地域の協力体制に配慮 ・地域住民の安全に配慮 ・保全団体、解説者に過度に負担がかからないよう配慮
自然環境保全	・自然環境保全などの活動への貢献、配慮	・地域資源の持続的な利用のため、自然環境保全に配慮、責任の所在を明確化、廃棄物抑制、資源循環（食事や材料等）、過度な利用の抑制
ツアー業務の一般的留意事項	・地域住民と協力者、プロモーターの役割分担の明確化 ・写真だけでなくマップ、スケッチ、イラストによる宣伝、広告	【安全確保】 ・最寄りの病院、休日診療の有無とルートの確認 ・訪問地毎に天候急変時の緊急避難場所の確認 ・訪問地毎の津波や自然災害時の避難場所とルートの確認、対策マニュアルの作成 ・事前の安全対策、危険個所の事前チェック、通路や柵などの修復、ロープ張り等 ・救急箱の準備、持参 ・参加者の服装、装備等に関する連絡 ・参加者の健康状態やアレルギー体質等の把握 【トラブルの回避】 ・旅行保険、傷害保険の説明と加入 ・地域住民の安全とトラブル防止のために交通整理等にあたる人材の配置 ・余裕のある行程、内容（量）とし、トラブル発生のリスクを抑制 ・雨天時等の代替プランの設定 ・訪問場所、個人名、写真などの SNS 等での発信に関する制限 ・携帯の電波受信エリアの確認
ガイドの責任	・ガイドの責任範囲の明確化 ・ガイド協会などの組織づくりと情報共有 ・交代要員の確保	・上記したリスクとその対応について認識し、当日の適切な対応ができるように準備 ・交通事故や災害等の発生時の連絡・応援体制の構築 ・事故発生時の訓練 ・救急時の対応力をつけるために山岳ガイド※¹ やウィルダネスメディカルアソシエイツジャパン※²などの野外災害救急法を受講し、知識と技術を身に付けておく ・現地に持ち歩ける最新書籍には「新版レスキューハンドブック」（藤原,2012）などがある。 ※1 : http://www.jfmga.com/guidemanual.html ※2 : http://www.wildmed.jp/index.html

3 エコツアー参考事例

ここではエコツアーの企画、準備を進める上で参考となる先進事例をいくつか紹介します。

「関西の活かしたい自然エリア」は、地勢を基に「海域・沿岸域」「淡水域」「平野・丘陵域」「山地域」の4つに分類されています。そこで、この4つの区分を対象に全9事例を表3-1～表3-3に記しました。事例選びにおいては、関西広域連合域内、またはその近隣地域を優先しました。

【紹介事例】

- 海岸・沿岸地域 3 地域
鳥羽市,
山陰海岸～丹後半島～天橋立
和歌山県上富田町～北山村
- 淡水域 1 地域
琵琶湖・淀川水系
- 平野・丘陵域 2 地域
飯能市, 名張市
- 山地域 3 地域
 (里山) 北摂・南丹
 南丹市美山地域 (旧美山町))
 (奥山) 谷川岳地域



表 3-1 エコツアー参考事例集

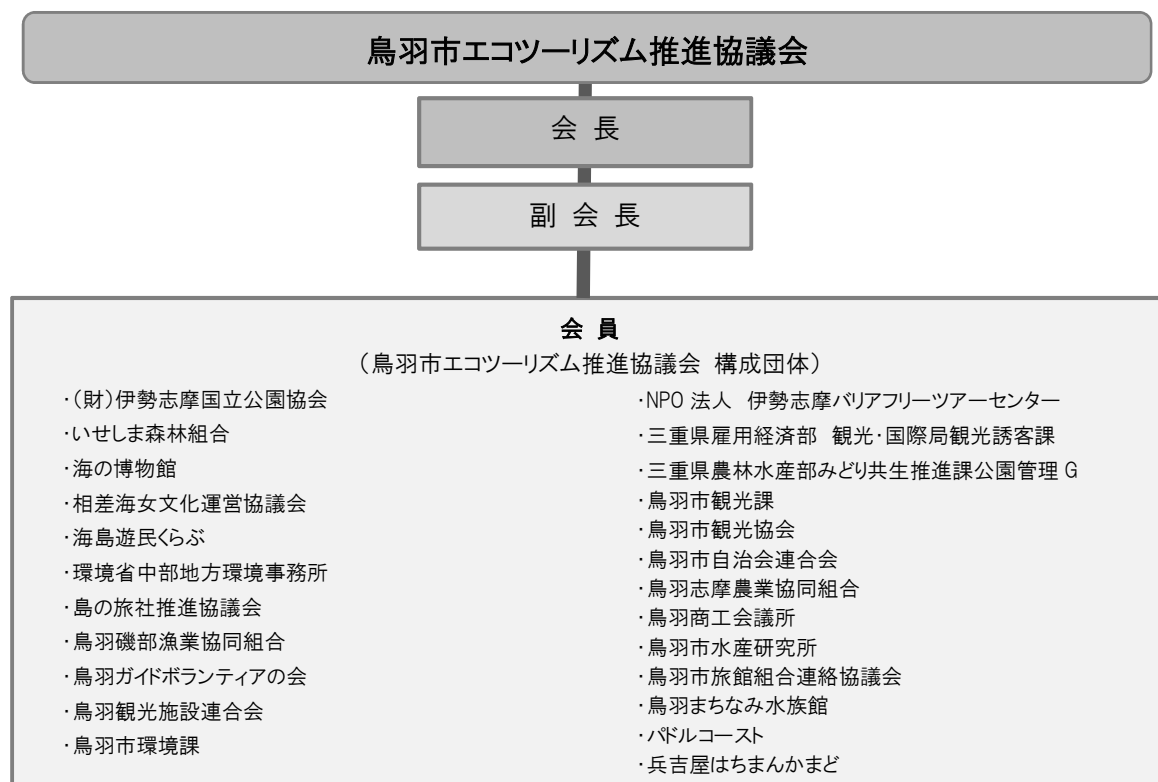
地域	海域・沿岸域		
	鳥羽市	山陰海岸～丹後半島～天橋立(自然エリア 1,17,20)	和歌山県上富田町～北山村(自然エリア 5,21)
推進主体	鳥羽市エコツーリズム推進協議会	山陰海岸ジオパーク推進協議会	南紀熊野ジオパーク推進協議会
参考 URL	https://www.city.toba.mie.jp/kanko/eco/zentaikoso.pdf https://www.city.toba.mie.jp/kanko/eco/ https://www.env.go.jp/nature/ecotourism/try-ecotourism/certification/toba/index.html	http://www.pref.kyoto.jp/news/shizen-kankyo/1256790539125.pdf http://sanin-geo.jp/info-index006 http://sanin-geo.jp/info-index001	http://nankikumanogeo.jp/ http://www.geopark.jp/geopark/nanki-kumano/ https://www.wakayama-kanko.or.jp/mizunokuni/contents/geopark.html
構成団体	鳥羽市観光協会、島の旅社推進協議会、(財)伊勢志摩国立公園協会、鳥羽磯部漁業協同組合、いせしま森林組合、鳥羽商工会議所、鳥羽市旅館組合連絡協議会、海の博物館ほか	域内の府県及び市町、域内の観光協会、浜坂温泉お宿組合、七釜温泉旅館民宿組合、湯村温泉旅館料飲組合、域内の商工会、域内の漁業協同組合、山陰海岸を世界の公園にする会、世界の石の花・華の博物館、玄武洞ミュージアム、遊覧船かすみ丸(有)、但馬海岸遊覧船、山陰松島遊覧(株)ほか	和歌山県、白浜町、那智勝浦町、新宮商工会議所、白浜観光協会、上富田町、古座川町、新宮市、すさみ町、太地町、北山村、串本町、環境省、各教育委員会、各市民団体ほか
エコツアー組織構成と特徴	協議会は、鳥羽エコツーリズムの理念や方向性を地域内外に発信する「普及啓発部会」と、地域内における連携を促し地域資源の保全および産業の活性化を図る「循環・連携部会」から構成されている。構成団体所属者が会員として参加している。(組織図 P29 参照)	運営委員会がジオパーク活動の全般にかかわる協議・検討を行い、各部会がテーマごとの協議・検討を行う体制となっている。部会は、学術部会、教育部会、ツーリズム部会、保護保全部会、地域産業部会の5部会がある。(組織図 P29 参照)	運営委員会と専門委員会の大きく2つの組織構成となっており、関係機関等の団体組織が、この組織母体と関わることになっている。専門委員会は学術的な情報の蓄積を担っている。また、アドバイザーのポストが設けられており、組織運営に様々な技能知識を持つものが関わる仕組みになっている。(組織図 P30 参照)
目的や構想	協議会の活動理念に基づいて鳥羽のまちの魅力の保全・活用することで地域経済への寄与と住民と来訪者が快適に過ごすことのできる地域づくりを目指している。	山陰海岸地域は地殻変動による日本海形成に伴った特徴的な火成岩・堆積岩層が見られる。また、火山地形や温泉資源、リアス式海岸や砂丘などの地質学的特徴を備えている。これらの形成についての地質学的背景と、これらの自然との関わりの中で形作られてきた文化や歴史についてエコツアーを通して学ぶ。	南紀熊野ジオパーク構想では、「それぞれ特徴的な地形景観や生態系、文化が育まれており、それらは互いに深く結びついている。このような南紀熊野の地では、大地と生き物と人の間で、様々な魅力的な「出会い」が常に生まれてきた。これらのことから、全体のテーマは、「プレートが会って生まれた3つの大地～大地に育まれた熊野の自然と文化に出会う～」とされている。
ストーリー/コンテンツ	・海を守る間伐 ・漁師の隠し魚 ・ハマユウ植樹	山陰海岸ジオハイキング/磯の生き物図鑑づくり/ジオパークの星空観察会/打ち上げ会 de 標本づくり/大谷海岸ストーンハンティングなど	テーマ:「プレートが会って生まれた3つの大地」～大地に育まれた熊野の自然と文化に出会う～ 大海から大島に来たものは～紀伊大島ビーチコーミング/ジオツアー/防災ジオツアー/串本海中観察会/紀伊半島の成り立ちを聞きながら熊野の意思を磨きましよう/古座川夏まつり「川の家」/ジオパークサイクリングツアー/まちなかジオツアーなど
学習等の拠点整備	エコツアーカフェ in 鳥羽等の取り組み、海の博物館、海女文化資料館ほか	新温泉町立山陰海岸ジオパーク館/鳥取県立山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館	宇久井ビジターセンター、南紀熊野ジオパークセンター(平成31年度設置予定)
地域資源のほりおこし	各団体、人材による専門分野における資源と魅力の掘り起こしと鳥羽エコツーリズム HP などによる情報発信	上記拠点施設などが担っている	研究等かねて専門委員会が担当している
人材育成	鳥羽地域が長く受け継ぎ大切にしてきた恵み豊かな自然、そして海女文化に代表される伝統的な文化等、地域環境の継承や持続的活用を図るための活動を行っている	鳥取県立山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館では、学校支援や地域支援として学芸員の派遣を行っている。また、新温泉町立山陰海岸ジオパーク館では不定期でジオパーク見学会を開催。山陰海岸ジオパークトレイル協議会ではガイド育成研修を実施	和歌山大学がアドバイザーとして参画している また、ガイドは育成プログラムにより認定を受けている
回遊型体験プログラム	-	山陰海岸ジオパークロングトレイルの普及を進めているが、広域的なガイドツアーはみられない	ジオツアーなどでは、市町村を横断して魅力的な地形・地質を巡るコース設定がされている

表 3-2 エコツアー参考事例集

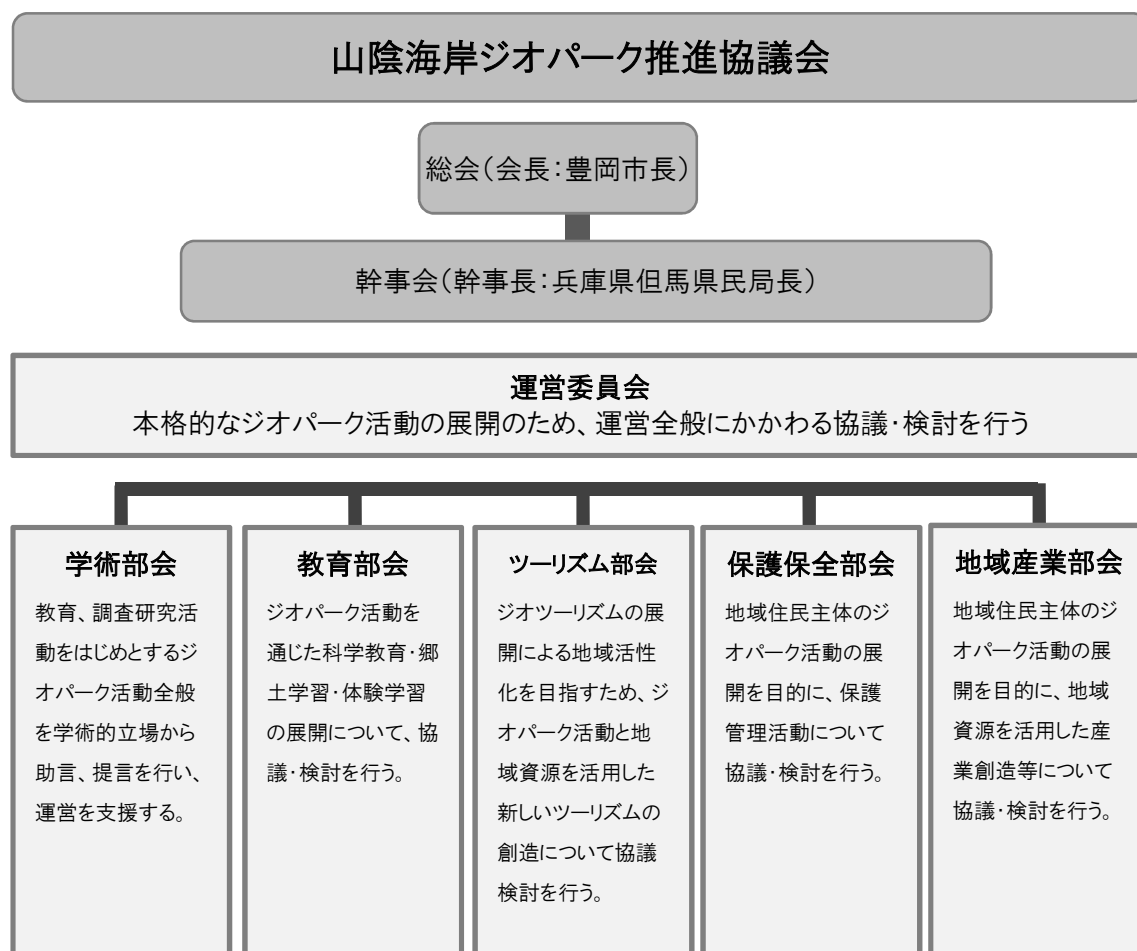
地域	淡水域	平野・丘陵域	
	琵琶湖・淀川水系 (自然エリア 6)	飯能市	名張市
推進主体	関西広域連合	飯能市エコツーリズム推進協議会	名張市エコツーリズム推進協議会
参考 URL	http://www.kouiki-kansai.jp/koikirengo/jisijimu/kankyohozen/index.html	http://www.env.go.jp/nature/ecotourism/try-ecotourism/certification/hannou/index.html http://www.mlit.go.jp/common/000213044.pdf http://www1.g-reiki.net/city.hanno/reiki_honbun/e310RG00000716.html	http://www.city.nabari.lg.jp/ct/other000027600/149003480-ecogaivo.pdf https://www.env.go.jp/nature/ecotourism/try-ecotourism/certification/nabari/index.html http://www.city.nabari.lg.jp/ct/other000030100/ecoohonpen-1407.pdf
構成団体	関西広域連合 (協力団体)、 国土交通省琵琶湖河川事務所、国土交通省淀川河川事務所、 滋賀県、京都府、大阪府、滋賀県立琵琶湖博物館、大阪府立環境農林水産総合研究所、NPO 法人家棟川流域観光船ほか	飯能市自治会連合会、飯能市商店街連盟、飯能商工会議所、飯能市観光協会、飯能市農林産物加工直売所、東吾野女性林研「ときめ木」、 西川林業クラブ、き・ま・ま・工・房木楽里、飯能市農業青年会議所、NPO 法人天覧山・多峯主山の自然を守る会、飯能市さわらびの湯、NPO 法人名栗カヌー工房、NPO 法人西川木楽会、飯能市文化財保護審議会、 入間漁業協同組合、休暇村奥武蔵、飯能市エコツーリズム活動市民の会、 環境省関東地方環境事務所、埼玉県、飯能市ほか	(社)名張市観光協会、名張商工会議所、NPO 法人赤目四十八滝渓谷保勝会、赤目観光協会、青蓮寺湖ぶどう組合、NPO 法人地域と自然、名張市ほか
エコツアー組織構成と特徴	関西広域連合とその構成自治体を中心となり、関西の活かしたい自然エリアを活用するためのエコツアーを企画。また、広域的な自然環境を対象として実施するという特徴から、国の機関、府県の研究機関、NPO などにも協力いただきツアーを実施した。	飯能市エコツーリズム推進協議会の事務局からツアーに関する広報、運営などを日本生態系保護協会に委託。エコツーリズム市民活動の会は、ガイドの育成・確保、企画実施などを担っている。市民活動の会は市内の団体を束ねている位置づけで、主要三組織による連携の体制となっている。(組織図 P30 参照)	事務局が名張市産業部観光交流室に置かれており、ルールの周知徹底、ガイドンス、プログラム、モニタリングを主導している。この事務局が参加する各団体と協議・連携しながらエコツーリズムの発展を目指している。また、環境省と三重県が協議会に情報提供と助言をし、事務局外部に安全アドバイザーを置いている。(組織図 P31 参照)
目的や構想	「関西の活かしたい自然エリア」を活かす方法として、自然資源を観光に活用しつつ守り育てることを目的とする	①参加者やツアー実施者の環境への意識を高めるとともに、自然の保全と文化の継承に役立つエコツアーを実施する。②より多様で、参加者の満足度が高いエコツアーを増やす。③より多くの住民が関わりながら、エコツーリズムを継続的に発展させる	名張市総合計画 新・理想郷プランに基づく 「豊かな自然と文化に包まれて誰もが元気で幸せに暮らせるまち 名張」
テーマ	・琵琶湖の環境や歴史 ・琵琶湖の湖魚料理 ・琵琶湖・淀川の治水、自然環境の歴史 ・鶴殿の歴史・自然・生態系、ヨシと人の暮らしとの関わり ・淀川の生態系、淀川の景観、文化	120 を超えるツアーがある。以下のものなどがあげられる。 『美しい星』の舞台を歩こう！～小説に描かれた飯能の魅力発見～/重要文化財福德寺阿弥陀堂御開帳と旬の味覚を楽しむ/あるく・さがす・あじわう～猟師・猟犬と歩く吉田山/飯能 岩沢 湧水巡り～太古からの暮らしに思いを馳せて～	・忍者修行発祥地の赤目地区で十数種類の忍者修行体験 ・滝すべりや昆虫の観察、自然の遊び体験 ・修験道修行の地で滝に打たれる ・厳寒期にしか見られない氷瀑を見る ・造り酒屋見学、史跡、里山をインタープリターの案内で訪問
学習等の拠点整備	滋賀県立琵琶湖博物館、水のめぐみ館アクア琵琶、大阪府立環境農林水産総合研究所水生生物センター、大阪市立自然史博物館、関連市町村の博物館ほか	飯能市エコツーリズム活動市民の会、飯能市エコツーリズム推進室が中心となっているが、施設的な拠点ははない	名張市郷土資料館、名張市民センター、HOS 名張アリーナほか
地域資源のほりおこし	魚のゆりかご水田や高島市針江の「かばた」、琵琶湖の湖魚の活用と保全、西の湖ヨシの灯り展などの新しい価値づくり、鶴殿のヨシの利活用と保全などの取り組みがある	ツアー実施を担うガイドや団体が担い手	赤目の滝をはじめとした自然環境、景観の利活用と保全。忍者に関連する伝統文化の活用に複数の団体、組織が取り組んでいる
人材育成	各種 NPO 活動や地域おこしの取り組みなどで体験や教育の機会があり、地域によっては人材育成が図られている	各団体で人材の確保、育成が行われている	赤目四十八滝渓谷保勝会を始めとしたボランティア活動などを通してトレーニング
回遊型体験プログラム	琵琶湖、淀川の流れを辿り、その魅力を楽しむツアーづくりが可能	市内でのエコツアー展開であるため、回遊型のものは乏しい	ボランティアガイドのコースとして以下がある ・名張街散策コース ・名張古墳軍コース

表 3-3 エコツアー参考事例集

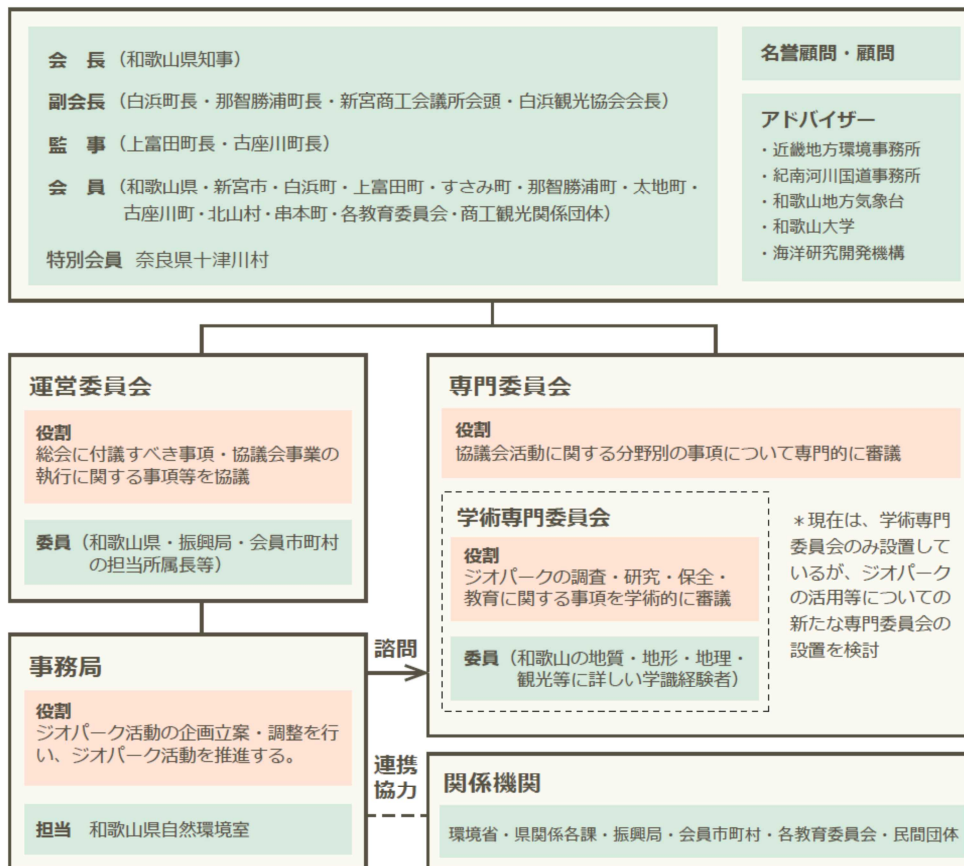
地域	山地域(里山)		山地域(奥山)
	北摂・南丹(自然エリア 16)	南丹市美山地域(旧美山町、自然エリア 14)	谷川岳地域
推進主体	関西広域連合	南丹市美山エコツーリズム推進協議会	谷川岳エコツーリズム推進協議会
参考 URL	http://www.kouiki-kansai.jp/koikirengo/jisijimu/kankyohozen/index.html	https://www.facebook.com/miyamaeco/ http://www.mlit.go.jp/common/001061266.pdf https://www.env.go.jp/nature/ecotourism/try-ecotourism/certification/nantan/index.html	http://www.tanigawadake-eco.com/ https://www.env.go.jp/press/files/jp/20224.pdf
構成団体	関西広域連合 (協力団体) 兵庫県、大阪府、兵庫県立人と自然の博物館、川西市、能勢町、北摂里山博物館運営協議会、御菓子司津村屋、能勢妙見山ブナ守の会、川西里山クラブほか	美山ふるさと株式会社(美山町自然文化村)、美山町知井振興会、知井地区旅の宿部会、美山まちづくり委員会、平屋振興会、宮島振興会、鶴ヶ岡振興会、大野振興会、南丹市商工会美山支部、美山町観光協会、有限会社かやぶきの里、有限会社芦生の里、芦生山の家、知井地区旅の宿部会、田歌舎、観光農園江和ランド、美山漁業協同組合、美山町森林組合、美山町環境保全対策協議会、内久保環境・史跡保存会、北村かやぶきの里保存会、NPO 法人芦生自然学校、NPO 法人美山ほっとステーション、南丹市、京都大学フィールド科学教育研究センター、各行政機関ほか	水上山岳ガイド協会、水上山岳会、谷川岳登山・環境研究会、谷川岳をきれいにする会、関越交通株式会社、谷川岳ロープウェイ株式会社、みなかみ町アウトドア連合会、水上民宿ペンション連合会、水上温泉旅館協同組合、みなかみ町観光協会、みなかみ町商工会、東京藝術大学、NPO 法人奥利根芸術文化アカデミー、みなかみ町、学識経験者。顧問アドバイザーには行政機関、群馬県自然保護連盟ほか
エコツアー組織構成と特徴	関西広域連合とその構成自治体が中心となり、関西の活かしたい自然エリアを活用するためのエコツアーを企画。また、広域的な自然環境を対象として実施するという特徴から、関係市町村、NPO などにも協力いただきツアーを実施した。	事務局を「美山町自然文化村」に置き、会員団体・組織、アドバイザー(学識経験者)、地方公共団体、運営委員会(会員 6 団体)で構成されている。	構成機関・団体と顧問、アドバイザー、地方自治体並びに行政機関で構成される。みなかみ町観光商工課に事務局を置く。 (組織図 P31 参照)
目的や構想	「関西の活かしたい自然エリア」を活かす方法として、自然資源を観光に活用しつつ守り育てることを目的とする。	全体構想に基づく。地域文化や歴史遺産などと多彩な自然・景観を組み合わせたプログラムを開発し、住民の意識と意欲を高めながら住民参加型のエコツーリズムを推進する。	地域固有の自然の保全と活用を目指し、歴史・文化にふれあう機会の提供、地域振興への貢献を同時に実現するため「守る」「活かす」「交わる」を基本理念としたエコツーリズムを確立する。
テーマ	・台場クヌギと一庫炭(菊炭) ・妙見山のブナ原生林 ・銀寄(栗)	各会員団体が、体験プログラムなどを展開。主催団体として観光農園江和ランド、田歌舎、美山町自然文化村、NPO 法人芦生自然学校、NPO 法人美山ほっとステーション、茅葺の里北村などがあり、農業、林業、狩猟、自然にかかわる体験を提供している	・山岳地形の魅力を活用したエコツアー ・湯檜曾川を利用したエコツアー ・動植物の魅力を活用したエコツアー ・地域の歴史を活用したエコツアー
学習等の拠点整備	兵庫県立一庫公園ビジターセンター、川西市文化資料館、川西市郷土館、猪名川町立ふるさと館、多田銀銅悠久の館、能勢町けやき資料館ほか	美山町自然文化村(事務局)	水上歴史民俗博物館、真沢ファーム交流の森、みなかみ町カルチャーセンター、月夜野びーどろパークほか
地域資源のほりおこし	一庫炭(菊炭)の歴史を活用した台場クヌギと炭焼、そして、エドヒガンに着目した里山管理、森作りが進められている。	各会員団体・組織やアドバイザーである学識経験者	地域おこしの団体として、大穴こぶしクラブ、猿ヶ京ネットワーク、月夜野ホテルを守る会、特定非営利活動法人 水上自然遊楽、水上観光ガイド協会などが活動している。
人材育成	里山管理や炭焼を中心に複数の NPO でボランティア活動を通じて技術が育まれ、継承につながっている。	各団体で人材の確保、育成が行われている。また、本業として担い手育成が図られている。	体験農園や伝統工芸関連の体験施設が多数あり、各体験教室を開催しており、観光資源となっている。
回遊型体験プログラム	台場クヌギと炭、銀寄を巡り、人と自然の関係を知るツアーづくりが可能	町内でのエコツアー展開であるため、回遊型のものは乏しい	-



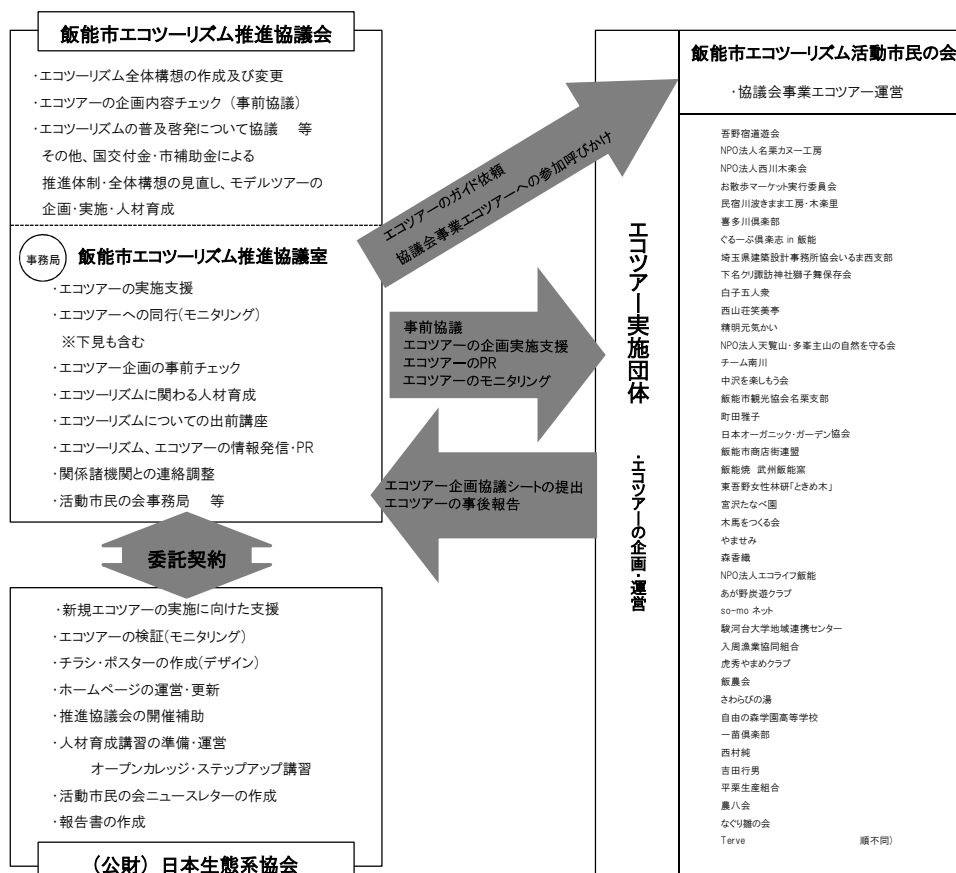
鳥羽市エコツーリズム推進協議会の組織図



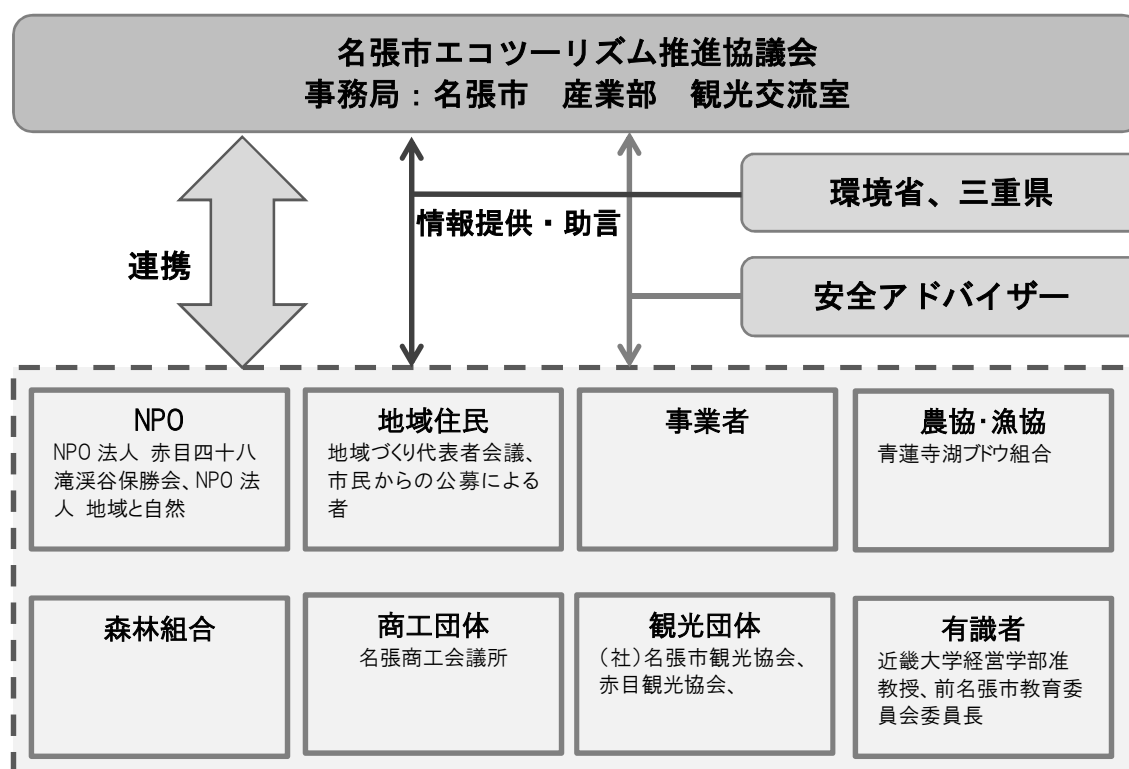
山陰海岸ジオパーク推進協議会の組織図



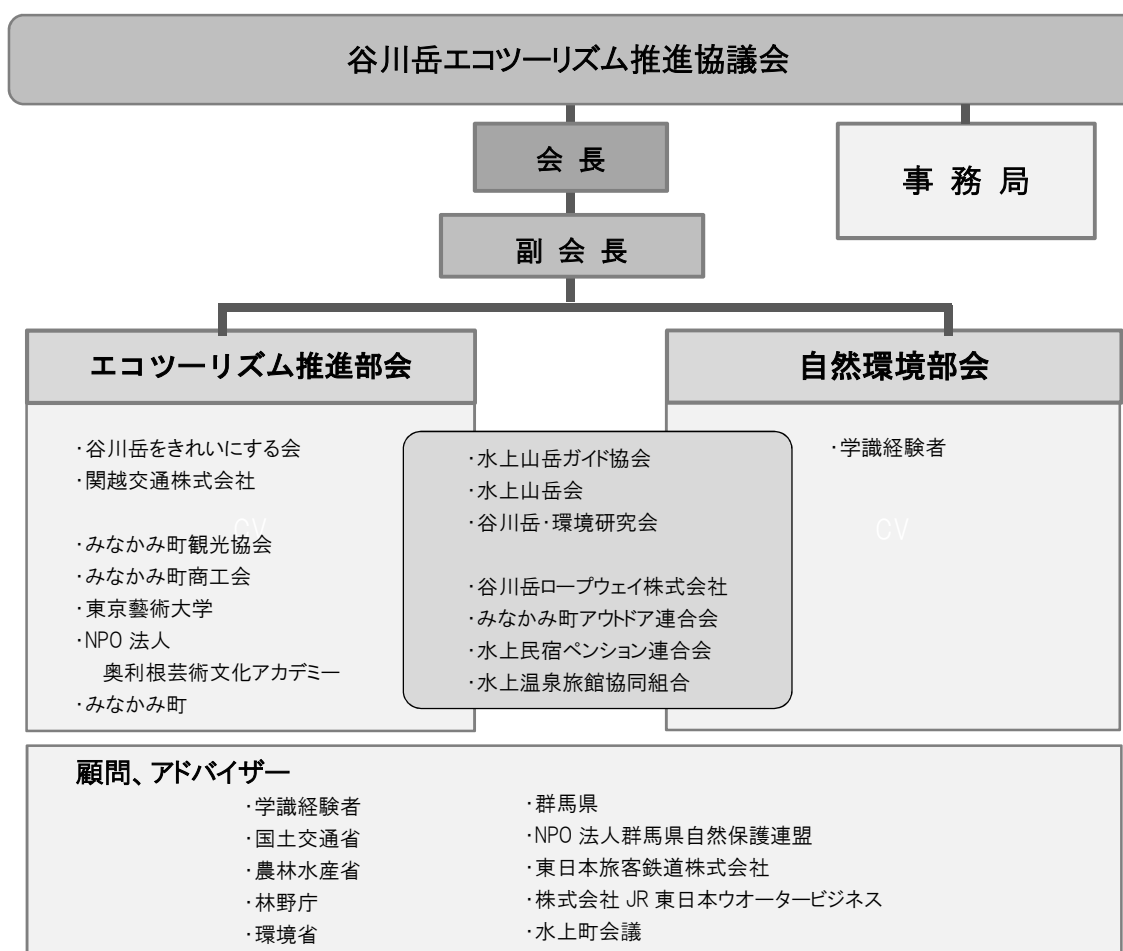
南紀熊野ジオパーク推進協議会の組織体制
(出典: <http://nankikumanogeo.jp/jimukyoku/>)



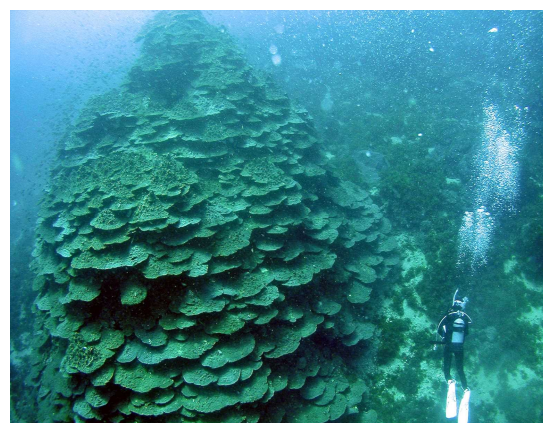
飯能市におけるエコツーリズムの組織体制
(出典: 平井 2013, 駿河台大学論叢 47)



名張市エコツーリズム推進協議会の組織図



谷川岳エコツーリズム推進協議会の組織図



「ツアー企画者のための地域の魅力を活かすエコツアー設計の手引き」(平成 30 年 3 月版)

【企画・発行】関西広域連合広域環境保全局（滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課内）

〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目 1 番 1 号 TEL : 077-522-5668 FAX : 077-522-5664

e-mail : kankyo@kouiki-kansai.jp

ホームページ: <http://www.kouiki-kansai.jp/koikirengo/jisijimu/kankyohozen/index.html>

【写真提供】徳島県立博物館・上崎聰敏・千々岩哲

【作成協力】株式会社 地域環境計画



関西広域連合

UNION OF KANSAI GOVERNMENTS